

CMIC REPORT 2010

シミックレポート 2010

シミック株式会社 第26期 ビジネスレポート

2009.10.1-2010.9.30



CMIC

Pharmaceutical Value Creator

証券コード: 2309 東証一部

人々の、健康で喜びに満ちた
幸せな生活を支えるために
～シミックグループの想いを、かたちに～



コーポレートシンボルのペンタゴン(正五角形)は、シミックグループの5つの事業領域(CRO事業、CMO事業、CSO事業、ヘルスケア事業、IPD事業)と、5つの事業が織り成すシナジーをシンボリックに表したものです。人々の健康で喜びに満ちた幸せな生活を支えるために、新たなビジネスを創生し、社会への貢献度を高めていく新たな事業の確立をめざすシミックグループの企業姿勢を表現したデザインです。

ペンタゴンに描かれた図形は、「人間」を表したもので、頭部のように見える丸は「知性」と「先見性」を、それを支える体のように見える曲線は、目標に向かい行動し成し遂げる「遂行力」と、飛躍するための「挑戦力」を表現しています。



Message from Kazuo Nakamura

中村和男メッセージ

代表取締役会長兼社長／CEO

CONTENTS

CEO 中村和男メッセージ.....	01	連結財務諸表	22
2011年9月期の見通し.....	08	会社概要	26
シミックグループの事業戦略	10	株式の状況	27
特集	14	株主メモ	28
業績ハイライト.....	21	healthクリックの健康コラム.....	29

日本のCROのパイオニアとして1992年に事業を開始したシミック。2010年4月には第一三共グループの静岡工場を譲り受け、CMO事業も国内最大級となりました。さらに、バイオマーカーL-FABPの開発に成功しIPD(知的財産開発)事業も新たなステージへと移行いたしました。

当レポートに記述されている業績予想並びに将来予測等は、入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があります。

株主の皆さまへ

To Our Shareholders

株主の皆さまには、日頃より格別のご支援を賜わり、厚く御礼申し上げます。

医薬品業界は、医療費抑制策の推進や、主力製品の特許切れ、世界的な新薬の承認審査の厳格化等の影響により厳しい事業環境が続いており、製薬企業各社は、開発品目の絞り込みによる効率化と、パイプラインの導入を通じた迅速な新薬開発力を強化する傾向にあります。

シミックグループの属する業界は、製薬企業のアウトソーシングニーズの拡大を背景として、緩やかながら市場規模は拡大傾向にあります。

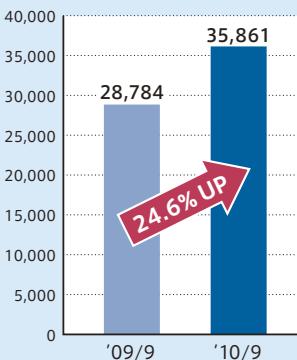
当期につきましては、CRO (医薬品開発支援)、CMO (医薬品製造支援)、CSO (医薬品営業支援)、ヘルスケア、IPD (知的財産開発) のそれぞれの事業において売上高の伸長と生産性の向上に取り組みました。また、2010年4月に

シミックCMO株式会社が当社の完全子会社として事業を開始し、同年7月にはデータマネジメント・統計解析事業を東京CRO株式会社より譲り受けるなど、製薬企業の医薬品事業を総合的に支援するための施策を積極的に実施しました。この結果、過去最高の売上・利益を達成し、売上高については創業以来連続の増収となりました。

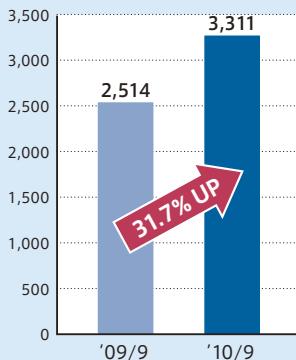


業績の要約 (連結)

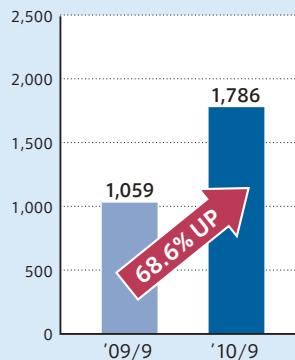
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

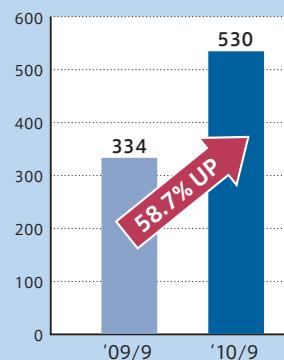


当期純利益 (百万円)



配当の状況

一株当たり配当金 (円)



2010年9月期のトピックス

Highlight & Topics

2009年12月 ▶ 第14回IR優良企業奨励賞を受賞(日本IR協議会)

2010年4月 ▶ シミックグループのロゴマークを変更

2010年4月 ▶ シミックCMO株式会社が事業を開始

▶▶ P14 をご参照ください

2010年6月 ▶ 尿素サイクル異常症治療薬「フェニル酪酸ナトリウム」の国内開発に関するライセンス契約を締結

▶▶ P19 をご参照ください

2010年7月 ▶ 東京CRO株式会社よりデータマネジメント・統計解析事業を譲受

2010年9月 ▶ 年間配当予想を修正
(年間配当金: 380円→530円)

2010年9月 ▶ 体外診断用医薬品「レナプロL-FABPテスト」の製造販売承認を取得

2009年12月エフ・ホフマン・ラ・ロシュ、
2010年4月ジェンザイム・コーポレーション
とのライセンス契約締結を発表

▶▶ P16 をご参照ください

2010年9月 ▶ 遺伝性血管性浮腫治療薬「エカランタイド」の国内開発・販売に関するライセンス契約を締結

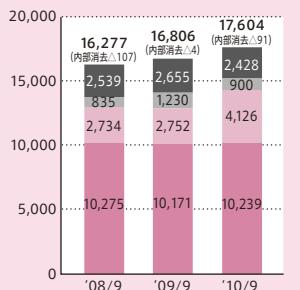
▶▶ P19 をご参照ください

CRO (医薬品開発支援) 事業

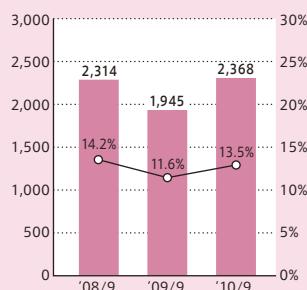
主に製薬企業に対し医薬品開発(臨床試験など)を支援する事業

当期は、モニタリング業務は、新規案件の獲得を推進しましたが、一部の受託案件において顧客都合によるプロジェクト内容の変更や開始の遅れなどの影響を受け、売上高は横ばいとなりました。データマネジメント業務は、積極的な営業活動の展開により新規受託案件の獲得が好調に推移し、売上高は大幅に増加しました。前臨床業務は、薬物動態事業の営業強化などで新規・既存顧客の受注が増加したものの、品質保証事業において一部顧客からの受注が減少したことの影響を受け、売上高は減少しました。薬事コンサルティング業務は、ヘルスケア分野の業務が低調であったことから、売上高は減少しました。この結果、売上高は17,604百万円(前期比4.7%増)、営業利益は2,368百万円(前期比21.8%増)となりました。

売上高 (百万円)

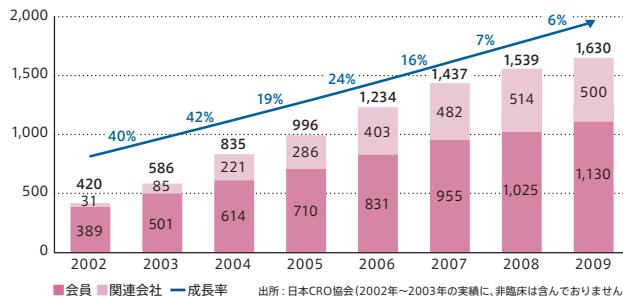


営業利益 (百万円)



■ モニタリング業務 ■ データマネジメント業務 ■ 薬事コンサルティング業務等 ■ 前臨床業務
■ 営業利益 ○ 営業利益率

日本のCRO市場 (CSOは除く) (億円)



■ 会員 ■ 関連会社 — 成長率 出所: 日本CRO協会(2002年~2003年の実績に、非臨床は含んでおりません)

CMO (医薬品製造支援) 事業

主に製薬企業から医薬品などの製造業務を受託する事業

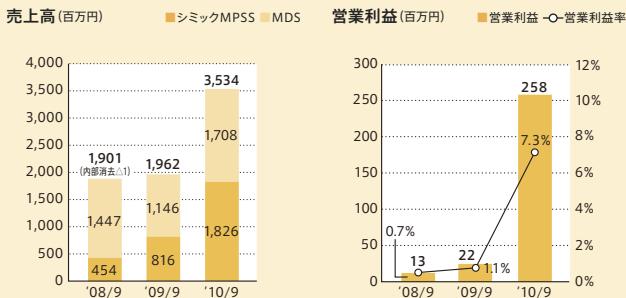
当期は、2010年4月よりシミックCMO(静岡)の業績が加わり、売上高は大幅に増加しました。また、シミックCMO富山株、CMIC CMO Korea、CMIC CMO USAも順調に推移し、売上高は3社とも増加となりました。この結果、売上高は6,883百万円(前期比149.2%増)、営業利益は369百万円(前期は営業損失59百万円)となりました。



CSO (医薬品営業支援) 事業

主に医薬品の営業・マーケティングを支援する事業

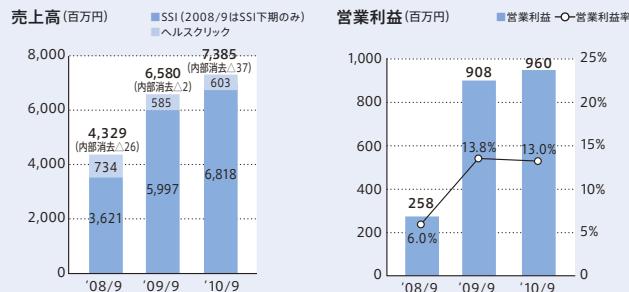
当期は、(株)シミックエムピーエスのMR(医薬情報担当者)派遣等の業務が新規顧客の獲得と大型案件の受託により、大幅な増収となりました。また、エムディエス(株)のメディカルコミュニケーション業務(販促資材の企画・制作等)も大型案件の受託により、増収となりました。この結果、売上高は3,534百万円(前期比80.1%増)、営業利益は258百万円(前期比1,060.6%増)となりました。



ヘルスケア事業

医療機関や患者、一般消費者の医療や健康維持・増進を支援する事業

当期は、サイトサポート・インスティテュート(株)のSMO(治験施設支援)業務において、営業体制の強化により全症例を一括受託する案件や大型案件の受注が増加し、売上高は増加しました。この結果、売上高は7,385百万円(前期比12.2%増)、営業利益は960百万円(前期比5.7%増)となりました。



IPD・その他事業

知的財産開発、一般派遣業務、新規事業に係る業務

当期は、IPD事業として2010年9月に「レナプロL-FABPテスト」の体外診断用医薬品として製造販売承認を取得、さらに希少疾病用医薬品3剤を導入し、開発に着手しています。また、医薬、医療業界に特化した一般派遣業務などが順調に推移しました。



2011年9月期の見通し

Overview of September FY2011 Forecast

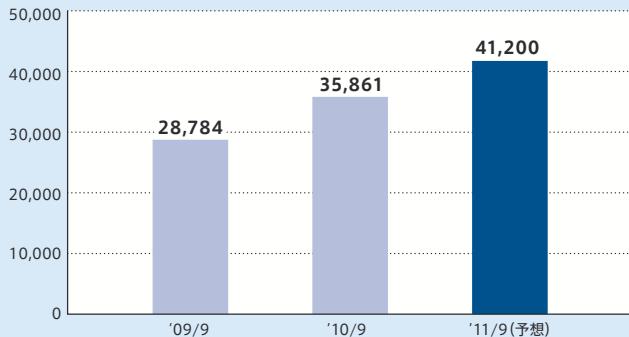
医薬品業界においては、政府による医療費抑制策が継続されるとともに、主力製品の特許切れが相次ぐなど、依然として厳しい事業環境が続くものと思われます。また、これに伴い、製薬企業は開発品目の絞り込みや開発方針の変更などにより新薬開発力を強化する傾向が続き、開発・製造・販売それぞれにおいて、スピードアップや効率化をめざしたアウトソーシングニーズが一層拡大するものと考えています。

このような状況の中で、シミックグループは、カンパニー制によるスピーディな意思決定と業務執行を最大限に活かして、各事業領域の基盤や個々のサービスの一層の強化を図るとともに、事業間のシナジーをさらに追求して事業の収益性と生産性を高めていきます。次期の業績につきましては、既存事業の成長に加え、シミックCMO株式会社の業績が通期で寄与することから、下記の通り計画しています。

通期見通し(連結) (百万円)

	'09/9	'10/9	'11/9	
	実績	実績	予想	前期比
売上高	28,784	35,861	41,200	14.9%
営業利益	2,514	3,311	3,550	7.2%
経常利益	2,400	3,214	3,450	7.3%
当期純利益	1,059	1,786	1,800	0.8%

売上高見通し(連結) (百万円)



通期見通し(セグメント別売上高) (百万円)

	'10/9	'11/9	
	売上高(実績)	売上高(予想)	前期比
CRO事業	17,604	18,100	2.8%
CMO事業	6,883	11,100	61.2%
CSO事業	3,534	4,000	13.2%
ヘルスケア事業	7,385	7,700	4.3%
IPD・その他事業	1,073	1,000	△6.8%
内部取引消去	△621	△700	-
合計	35,861	41,200	14.9%

営業利益見通し(連結) (百万円)



シミックグループの事業戦略

Group Strategy

シミックは、1992年に日本で初めてCRO事業を開始し、1996年には韓国においても初めてCROを立ち上げました。また、SMO事業についても1996年に日本で初めて事業を開始し、医薬品開発における臨床試験の効率化、迅速化に貢献してきました。さらに、安全性情報業務についても2002年に日本のCROで初めて事業化をしました。このように、シミックが初めて事業化したものは、今日の製薬企業にとって不可欠なものとなっています。この『先見性』と実際に事業を成し遂げる『創業力』が当社の大きな強みです。

シミックグループは、製薬企業の付加価値向上に貢献する、当社独自の事業モデルであるPVC (Pharmaceutical Value Creator)を展開し、開発から製造、営業・マーケティングまで、製薬企業の医薬品事業のバリューチェーンをフルサポートする体制を整え、広範に支援をしています。

シミックグループは、成長性が高い事業領域においては売上高シェアの持続的上昇、市場が確立した事業領域において

は利益率の持続的向上を重視しています。グループ全体としては売上高営業利益率10%以上の達成を目標としています。

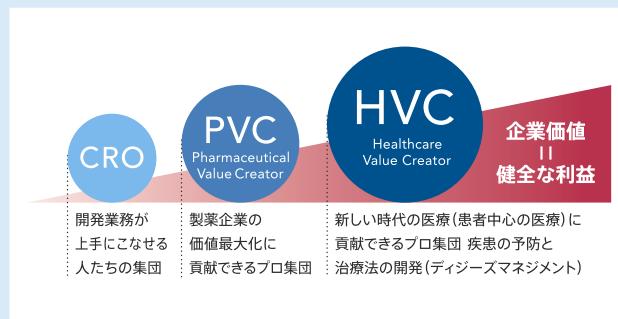
さて、シミックグループを取り巻く環境は、医療費抑制と製薬企業のグローバル化、薬事法改正、新技術基盤に基づく創薬ベンチャーの創生により大きく変動しようとしています。今後は、PVCという独自の事業モデルのもと、医薬品業界への参入をめざす異業種企業や日本市場への進出を図る海外製薬企業などに対し、医薬品等の開発、製造・営業・マーケティングを全面的に支援するとともに、国内企業の海外での医薬品等の開発および製造支援を行い、シミックならではのフルサポートを行ってまいります。

このようなPVCに基づいた事業拡大を通じて、希少疾病も含めて、より多くの安全で有効な医薬品を利用できる環境を形成し、さらには疾患の予防から診断、治療に至るまで、人々の健康維持や健康増進に広く寄与してまいります。

シミックグループのビジネスモデルPVC



シミックグループがめざすもの



CRO事業

シミックグループは、CRO事業を中心として業容の拡大を進めてきており、現在も中核の事業です。今後、PVCを一層推進することにより、これまで築いた競争優位の地位を維持し、さらに強化していきます。具体的には、①業務の全面受託への対応力強化、②アジア共同治験、国際共同治験への対応力強化、③品質・専門性の向上のための人材育成の強化、④PVCの各事業の相乗効果と生産性向上を目的とした治験環境整備の促進、などに取り組んでまいります。特に、国際共同治験の増加の流れを踏まえ、海外の拠点を設置し、国際化に対応できる体制の整備を進めてまいります。今後は、これまでの国際共同治験(米・欧・アジア同時開発)の経験と実績を活かして、アジア地域におけるCRO事業のさらなる拡大を図ります。また、EDC(インターネットを利用し電子的に臨床データを収集するシステム)の活用を含めた日本企業の海外進出時および海外企業の日本進出時の医薬品開発支援業務を推進してまいります。

CMO事業

シミックCMO株式会社の事業開始により、ほぼ全ての剤形が受託可能な国内で有数のCMOとなりました。今後、他社との差別化を図り成長を促進するために、高品質な製品の製造、製造原価の低減、新規受託品の獲得に取り組むとともに、製剤開発技術力を特徴とするCMOとしての基盤強化を図ってまいります。

CSO事業

製薬企業のMR派遣等の需要は増加しつつあり、CSO市場は拡大する傾向にあります。業界シェアを拡大するため、製薬企業のマーケティング&セールスを包括的に支援する体制を構築し、グループ営業力の強化、大型案件の受注による収益性の向上、優秀な人材の確保に取り組んでまいります。

ヘルスケア事業

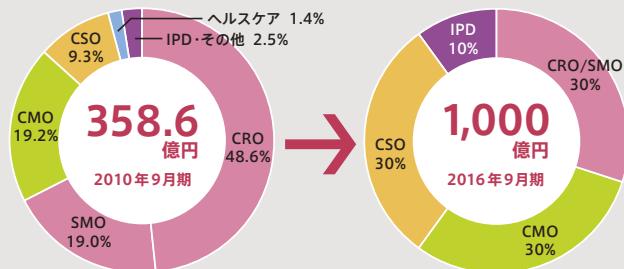
SMO業務においては市場シェア拡大に向けて、大型案件や全症例受託案件の獲得増加、人材育成に取り組んでまいります。また、臨床研究の強化やL-FABP診断薬事業の利益創出に取り組めます。

IPD事業

希少疾病用医薬品(オーファンドラッグ)3剤の承認に向けて開発を推進してまいります。

シミックグループは、2016年9月期に売上高1,000億円の達成をめざして、成長基盤を拡充し、持続的な企業価値向上を図ってまいります。

連結売上高構成比



本格化するCMO事業

2005年に改正薬事法が施行となったことにより、製薬企業の製造工程は全面的にアウトソーシングが可能となり、製造受託市場は年々拡大しています。

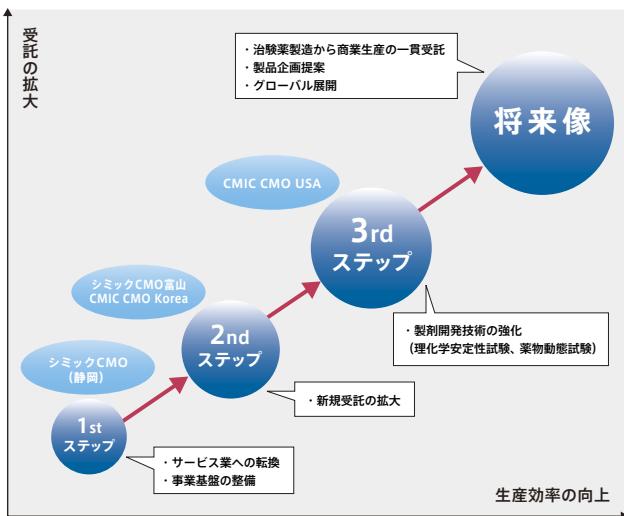
シミックグループは、CMO事業をCRO事業に続く第二の中核事業と位置づけ、高品質の医薬品を安定的に供給することをCMO事業のミッションに掲げています。これまで日本、韓国、米国の3カ国において段階的に受託領域と規模の拡大を進めてきましたが、本年4月の第一三共グループの静岡工場（現シミックCMO株式会社）譲受により、医療用医薬品、

OTC医薬品等のほぼ全ての剤形の製造受託が可能となりました。

国内外の製造受託各社との差別化を図り成長を促進するためには、製剤開発技術力を特徴とするCMOとしての基盤強化を早急に推進することが不可欠と考えています。

今後、医薬品の製造に関する技術水準の高度化および製剤開発力の強化を図り、製薬企業に対して医薬品の製剤処方設計から製造まで一貫したサービスを提供してまいります。

シミックグループCMO各社のポジショニング



CMIC CMO USA [米国]
(旧社名 CMIC VPS-Corporation)



シミックCMO富山 [富山]
(旧社名 シミック・エスエス・CMO)



CMIC CMO Korea [韓国]



シミックCMO [静岡]



腎疾患バイオマーカー 「L-FABP」の開発

体外診断用医薬品として製造販売承認を取得

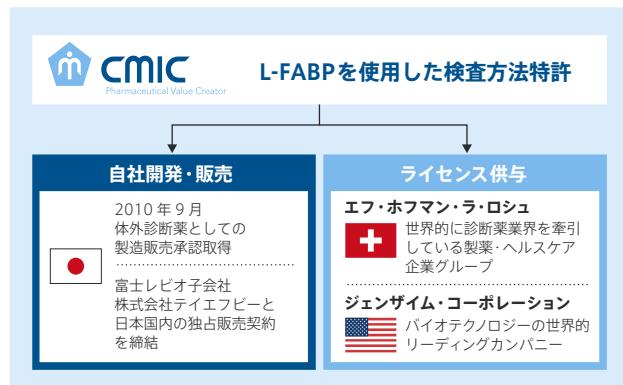
バイオマーカーとは?

尿や血液に含まれる生体由来の物質で、生体内の変化を定量的に把握するための指標になるものをバイオマーカーといいます。

腎疾患バイオマーカー「L-FABP」

近年、腎疾患の患者数は世界的に急増しており社会的な問題となっています。また、腎機能の低下が心血管疾患の危険性を大幅に高めることへの懸念が広がっています。このため、腎疾患の進行と密接にかかわる尿細管機能障害についての新しい指標確立へのニーズが高まり、当社は世界に先駆けて尿中のL型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)のバイオマーカーとしての開発を進めてまいりました。

L-FABP事業



L-FABPは腎臓の近位尿細管に局在し、尿細管機能障害を伴う腎疾患を高精度に診断できる特性を有しているため、的確な病態把握による集約的治療が加速され、透析移行する患者数の逡減につながることを期待されています。

国際的に注目を集める「L-FABP」

当社が開発した腎疾患バイオマーカー「L-FABP」は海外でも高く評価され、米国NIH(国立衛生研究所)が関与するバイオマーカー評価に関する臨床プログラムにおいて、唯一の日本発バイオマーカーとして取り上げられました。

当社は、これまでにスイスのエフ・ホフマン・ラ・ロシュや米国のジェンザイム・コーポレーション、国内では検査薬大手である富士レビオ株式会社とL-FABPを使用した腎疾患の検査方法に関するライセンス契約を締結しています。

今後の見通し

今後は、腎疾患治療薬の薬効確認や、腎疾患用薬、さらには様々な医薬品の腎毒性評価への応用も検討し、新薬開発や既存薬のスクリーニングなどにも活用できればと考えています。

診断薬としての製造販売承認を取得

バイオマーカー L-FABPを調べるための体外診断用医薬品「レナプロL-FABPテスト」の製造販売承認を2010年9月に取得

希少疾病用医薬品の開発

(オーファンドラッグ)

オーファンドラッグとは？

患者数が少ない(日本では対象患者数5万人未満)、治療法が確立されていない重篤な病気のための医薬品のことです。

社会的意義

有効な代替治療法がなく、治療に苦しむ患者さんたちの立場を考慮すると、オーファンドラッグの開発は社会的に大きな意義を持っています。

当社は、製薬企業の業務支援で培ってきたノウハウを活用することにより、医療上の要望があるものの製薬企業による開発が見送られているオーファンドラッグの中で、海外で既に発売されている製品の国内開発権を取得し臨床開発を行なう事業に取り組んでいます。現在、当社が国内開発を進めているオーファンドラッグは次の3製品です。



急性ポルフィリン症治療薬「ヒトヘミン」

急性ポルフィリン症は、遺伝子の異常に基づく血液の病気で、「ヘム」という色素を作る過程における異常が原因です。日本では10万人に1人が遺伝素因を有するといわれています。

尿素サイクル異常症治療薬「フェニル酪酸ナトリウム」

アンモニアを解毒し尿素を生成する代謝経路(尿素サイクル)に遺伝的な欠損が生じるために発症する先天代謝異常症で、4万6千人に一人が乳幼児期に発症するとされています。

遺伝性血管性浮腫治療薬「エカランタイト」

免疫システムを構成する補体系の一部の欠損または機能不全により、体の様々な組織に繰り返し「浮腫」が起こる稀な遺伝病で、国内では5万人から7万人に1人の割合で発症するといわれています。

「ヒトヘミン」と「フェニル酪酸ナトリウム」は厚生労働省に設置された未承認薬使用問題検討会議で、医療上必要性が高いと判断される未承認薬として指定されています。

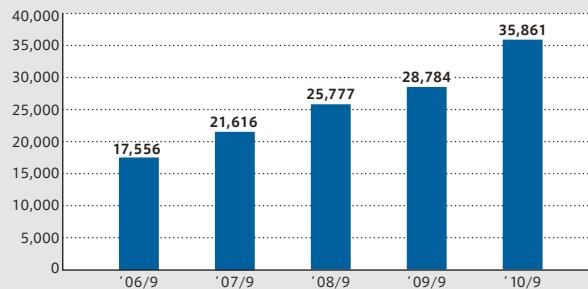
当社は、バイオマーカーやオーファンドラッグの開発を通して、社会的意義を追求すると同時に、知的財産の蓄積と新たな収益モデルの構築をめざしています。

Financial Section

業績ハイライト

当期の業績は、売上高35,861百万円(前期比24.6%増)、営業利益3,311百万円(同31.7%増)、当期純利益1,786百万円(同68.6%増)となりました。

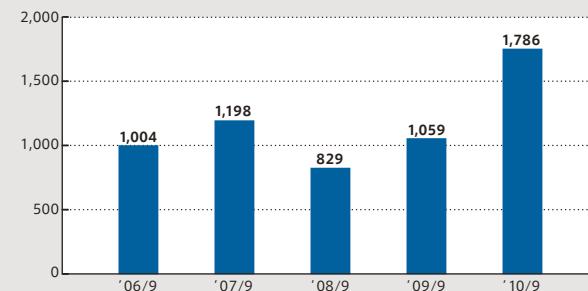
売上高 (百万円)



営業利益および営業利益率 (百万円)



当期純利益 (百万円)



連結財務諸表

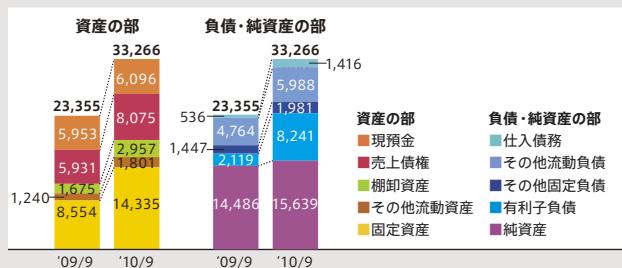
連結貸借対照表(要旨) (単位:千円)

科目	当期	前期
	2010年9月30日現在	2009年9月30日現在
資産の部		
流動資産	18,930,718	14,800,925
固定資産		
有形固定資産	10,674,003	5,002,061
無形固定資産	1,323,902	1,292,634
投資その他の資産	2,338,033	2,259,548
固定資産	14,335,940	8,554,244
1 ▶ 資産合計	33,266,659	23,355,170
負債の部		
流動負債	9,437,682	6,729,759
固定負債	8,189,735	2,138,571
2 ▶ 負債合計	17,627,418	8,868,330
純資産の部		
株主資本	15,187,041	13,714,752
評価・換算差額等	△ 264,353	△ 205,974
少数株主持分	716,552	978,061
純資産合計	15,639,241	14,486,839
負債純資産合計	33,266,659	23,355,170

1 ▶ 資産合計: 主にシミックCMO(株)の連結子会社化により増加

2 ▶ 負債合計: 主にシミックCMO(株)の株式取得のために調達した長期借入金により増加

連結貸借対照表 (百万円)



連結損益計算書(要旨) (単位:千円)

科目	当期	前期
	2009年10月1日から 2010年9月30日まで	2008年10月1日から 2009年9月30日まで
売上高	35,861,532	28,784,828
売上原価	26,277,734	20,927,192
売上総利益	9,583,797	7,857,636
販売費及び一般管理費	6,272,754	5,343,404
営業利益	3,311,043	2,514,231
営業外収益	118,160	108,431
営業外費用	214,252	222,503
経常利益	3,214,951	2,400,160
特別利益	298,670	1,200
特別損失	177,929	165,206
税金等調整前当期純利益	3,335,692	2,236,153
法人税、住民税及び事業税	1,844,443	1,333,660
法人税等調整額	△ 365,974	△ 251,766
少数株主利益	70,894	94,573
当期純利益	1,786,329	1,059,684

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:千円)

科目	当期	前期
	2009年10月1日から 2010年9月30日まで	2008年10月1日から 2009年9月30日まで
3▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,607,940	1,468,702
4▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,308,685	△1,360,625
5▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー	5,690,528	△632,033
現金及び現金同等物に係る換算差額	△19,870	△33,773
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△30,087	△557,729
現金及び現金同等物の期首残高	5,512,948	6,070,677
現金及び現金同等物の期末残高	5,482,860	5,512,948

3▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー
主に税金等調整前当期純利益によるもの

4▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー
主にシミックCMO(株)取得による支出

5▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー
主にシミックCMO(株)株式取得のため
調達した長期借入による収入

連結株主資本等変動計算書(要旨) (単位:千円)

当期 2009年10月1日から 2010年9月30日まで	株主資本			株主資本合計		評価・換算差額等		少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2009年9月30日残高	3,087,750	5,960,881	5,082,406	△416,285	13,714,752	△205,974	△205,974	978,061	14,486,839
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当	—	—	△146,783	—	△146,783	—	—	—	△146,783
剰余金の配当(中間配当)	—	—	△166,999	—	△166,999	—	—	—	△166,999
当期純利益	—	—	1,786,329	—	1,786,329	—	—	—	1,786,329
自己株式の取得	—	—	—	△335	△335	—	—	—	△335
自己株式の処分	—	—	△25	103	78	—	—	—	78
株主資本以外の項目の 当期の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△58,378	△58,378	△261,508	△319,887
当期の変動額合計	—	—	1,472,520	△231	1,472,289	△58,378	△58,378	△261,508	1,152,402
2010年9月30日残高	3,087,750	5,960,881	6,554,927	△416,516	15,187,041	△264,353	△264,353	716,552	15,639,241

会社概要

2010年9月30日現在

商号	シミック株式会社
設立	1985年
資本金	3,087,750千円
本社所在地	〒141-0031 東京都品川区西五反田7-10-4 金剛ビル
従業員数	3,476名(連結)
グループ会社 (連結子会社)	株式会社シミックエムピーエスエス 株式会社シミックBS 株式会社ヘルスクリック 株式会社応用医学研究所 エムディエス株式会社 シミック・エスエス・CMO株式会社 ※1 サイトサポート・インスティテュート株式会社 シミックCMO株式会社 CMIC Korea Co.,Ltd. 希米科医薬技術発展(北京)有限公司 CMIC CMO Korea Co., Ltd. CMIC BRASIL PESQUISAS CLÍNICAS LTDA. CMIC Asia-Pacific, Pte.Ltd. CMIC-VPS Corporation ※2
持分法適用会社	富士フイルム・シミックヘルスクエア株式会社

※1 2010年10月1日にシミックCMO富山株式会社に商号変更
 ※2 2010年10月4日にCMIC CMO USA Corporationに商号変更

役員 (2010年12月15日現在)

代表取締役会長兼社長	中村和男		
代表取締役	中村宣雄	市川邦英	中村圭子
取締役	清水政男	佐野 極	望月 涉
取締役(社外)	原 護		
常勤監査役	石丸昭雄	高本哲義	
監査役(社外)	酒井 繁	種房俊二	

株式の状況

2010年9月30日現在

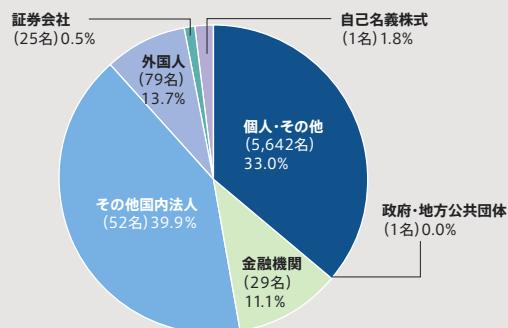
発行可能株式総数	2,300,000株
発行済株式総数	894,957株
株主数	5,829名

大株主

株主名	株主数(株)	持株比率(%)
株式会社アルテミス	318,410	36.22
中村和男	95,486	10.86
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	54,470	6.19
タイヨーパルファンドエルビー	43,840	4.98
株式会社キースジャパン	35,972	4.09
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	19,470	2.21
シミック従業員持株会	15,297	1.74
資産管理サービス信託銀行株式会社	14,730	1.67
TAIYO BLUE PARTNERS, L.P.	8,590	0.97
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフ シー リー ノーザン トラスト ガンジー アイリツシ ユ クライアント	8,360	0.95

(注) 1. 持株比率は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は発行済の普通株式の総数から自己株式(16,022株)を除いて計算しております。
 3. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社、日本マスタートラスト信託銀行株式会社、資産管理サービス信託銀行株式会社は、当該各社の信託業務に係る株式であります。

所有者別の構成比率(株式数比率)



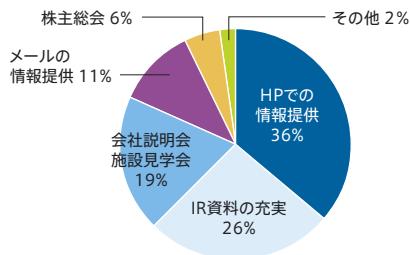
株主メモ

事業年度	10月1日から翌年9月30日まで
剰余金の配当基準日	9月30日(中間配当を行う場合は3月31日)
定時株主総会	毎年12月
単元株式数	10株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
郵便物送付先・ お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-288-324(フリーダイヤル)
公告方法	電子公告(http://www.cmico.jp) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載を行います。

株主アンケートのご報告

2010年9月期中間シミックレポートにてご案内いたしましたアンケート調査において、多くの株主の皆さまより貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。今後も株主の皆さまのご期待に沿えるよう企業努力を続けてまいります。

IR活動について充実を希望すること



healthクリックの健康コラム

タオル3枚で風邪をシャットアウト!?



風邪のウイルスは低温と乾燥の環境下で急激に増殖するもの。暖房が普及した現在、冬に風邪が流行るのは、寒さのせいよりも空気の乾燥によるところが大きい。喉の粘膜や気道から出ている免疫物質を含んだ分泌液が乾燥し、免疫力が落ちてしまうのだ。それを防ぐために心がけたいのが、加湿。家庭に加湿器がない場合の裏ワザとして、夜寝る前、部屋に濡れタオルを3枚かけておく方法もある。室内の湿度も、ちょうど50%程度に保たれるとか。ぜひ一度お試しあれ!

healthクリック

「healthクリック」は、健康一般情報および疾病に関する情報を提供する日本最大級の健康ポータルサイトです。ぜひご利用ください。



病院・薬・サプリメントの情報満載!

詳細はこちらへ → <http://www.health.ne.jp>

©Takumi Ota



シミツク株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田 7-10-4 金剛ビル

Tel 03-5745-7070(代) Fax 03-5745-7077

<http://www.cmic.co.jp/>